

今日は、皆さんに3点お伝えしたいと思います。

1つ目は、新型コロナウイルスの関係で大変難しい課題がある中、ここにおられる理事者、部長、管理職の皆様には、さまざまな分野で活躍をいただきましたことに感謝いたします。このような時こそ自治体それぞれの底力が顕著に表れる、そのような機会でもあったと思います。いろいろな課題がありましたが、総じて生駒市の対応はすばらしい対応であったと思います。また、時間がない中、しっかりと考え、すぐに行動に移し、その情報を市民・事業者に発信をして必要な人に必要な情報が届くよう努めていただき、忙しい中でも丁寧に対応していただきましたので、多くの市民の皆さんから感謝の言葉が届いております。

管理職の皆様から課員の方へ、これまでの頑張りについて各課の職員にお礼を言っていただく時間を設けていただくとともに、気は抜かず、ただ、課員が一度リセットし、気持ちの入れ替えができるよう少し区切りをつけてもらい、次の第2波に備えて頑張ってくださいのためにも、管理職の方には対応いただきたいと思います。

次に2つ目ですが、本業が少しずつ動きだしましたが、コロナの影響により、ある意味今日の7月1日が、例年で言うところの4月1日になっているように思います。今年度は、限られた期間の中で、しっかりと必要なことはやっていかなければなりません。

また、令和3年度の予算に向けて少しずつ考えていく必要もありますし、このような状況下だからこそ、いろいろなことをICT化・オンライン化していくような動きであるとか、地元の事業者、地元のお店を利用して地産地消の意識を持って対応いただきたいと思います。

また、地域に目を向けて、ワークとライフとコミュニティをしっかりと両立させるようなやり方で、まだコロナの状況下といえるこの時期だけ

らこそ許されることにどんどん挑戦していただきたい。With コロナ、アフターコロナと言われているような、コロナをチャンスにできる自治体か、そうでないかで、自治体の底力が顕著に表れてきます。このタイミングを逃すことなく、しっかりと残りの令和2年度及び令和3年度に進めてもらいたいと思います。

最後に3つ目は、市政50周年についてですが、生駒市の市制50周年事業では、式典を行うだけでなく、今年11月の49周年から1年かけて、地域に目を向け、この50年に生駒市で頑張ってきた方、生駒市の発展を支えてこられた方に対して、改めてこの50周年をきっかけに感謝の言葉をお伝えするような機会を作りたいと思います。

また、同時に次の50年につきましては、現在、生駒市が取り組もうとしている複合型のコミュニティや自治体3.0といったワークとライフだけでなくコミュニティも一緒に行う三位一体の生き方について、仕事もできる、地域のコミュニティも発達している生駒市なら地域活動も豊かで面白いと思っていただけるような、そんな市民や事業者が生駒市に来ていただける大きなチャンスだと思います。

今だからこそ、各地域のコミュニティを改めて見直していただき、どのようなまちづくりを次の50年にしていくことが必要なのかをこの1年はしっかりと考えていただき、議論させていただいたうえで、その方向性を決めていきたいと思います。

コロナの状況下であるからこそ、市政50周年のプロジェクトの意味を理解していただき、そのような考え方の下、自分の課では何ができるのかを考えていただきたい。

今一度、生駒市の総合計画の基本構想を読み返していただき、まちづ

くりの方向性について再確認いただきたい。そのうえで生駒市職員そしてまちの一員としてどういったことができるのかを考えていただきたいと思います。

最後になりますが、コロナウイルスをはじめとして、職員の皆さんには、この数か月間、尽力いただいたことに心から感謝を申し上げますとともに、残り9ヶ月間の本年度につきましても、しっかりと力を合わせて取り組んでいただきますようお願いいたします。